

(ウ) 糖尿病

糖尿病は過食、運動不足、肥満などの生活習慣によりインスリンの正常な作用が障害されることが原因で発症することから、これらの生活習慣の改善に取り組む必要があります。

糖尿病になると、心血管疾患のリスクを高め、神経障害、網膜症、腎症、壊疽などによって、QOLの著しい低下を招き、社会的な影響も大きい疾患であることから、その発症や重症化を予防することは重要な課題です。

また、自覚症状がないことが多いため、受診しようとする意識が少なく、結果的に放置することにより悪化を招く可能性が高く、健診による早期発見が欠かされません。

<県の現状> ※健康ちば21（第2次）の最終評価から抜粋

「合併症（糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数）の減少」
微増しており、目標値に達していません。

計画策定時 (H22)	中間評価(H27)	最終評価 (R3)	第2次目標値(R4)
802人	839人	806人	738人

(データソース：(一社)日本透析医学会「慢性透析患者に関する基礎調査」患者調査における年度末患者数)

「治療継続者の割合の増加」

微増していますが、目標値に達していません。

計画策定時 (H23)	中間評価(H29)	最終評価 (R3)	第2次目標値(R4)
88.1%	88.9%	88.8%	95.0%

(データソース：生活習慣に関するアンケート調査)

「血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合（40～74歳）の減少」*

男女ともに改善し、目標値を達成しました。

*HbA1cがJDS値8.0%(NGSP値8.4%)以上の者

	計画策定時 (H25)	中間評価 (H27)	最終評価 (R1)	第2次目標値 (R4)
男性	1.6%	1.2%	1.2%	1.4%
女性	0.7%	0.5%	0.5%	0.6%

(データソース：特定健診・特定保健指導に係るデータ収集、評価・分析事業報告書)

<県の課題>

- 糖尿病性腎症重症化予防の推進のため、生活習慣の改善による発症予防が必要です。
- 千葉県糖尿病性腎症重症化予防プログラムの周知や関係機関との連携強化をしていくことが必要です。

<県が実施する具体的施策・取組の方向性>

「千葉県保健医療計画」「千葉県における健康福祉の取組と医療費の見通しに関する計画」と連携して推進します。

1 生活習慣と糖尿病の関係についての周知

- 糖尿病の発症を予防するために、適切な食生活、適度な身体活動や運動習慣の重要性について周知します。
- 糖尿病は、初期段階では自覚症状が乏しく、気づいた時には病状が進行している恐れがあることから、その予防のために、年1回の健診で健康管理を行う必要性を周知します。

2 特定健康診査・特定保健指導の効果的な実施を支援

- 特定健康診査・特定保健指導の効果的な実施に向け、受診率を高めることができるよう、効果的な実践例の紹介、広域的な関係機関の調整、情報提供などにより、医療保険者を支援します。
- 今後の取組に生かせるよう県内の特定健診データを収集・分析し、その結果を情報発信するとともに、特定保健指導の実施率を高めるため、指導者のスキルアップをはじめ、保健指導の向上を図るための人材育成を実施します。

3 重症化予防に向けた取組を支援

- 千葉県糖尿病性腎症重症化予防プログラムを活用し、糖尿病性腎症発症のリスクを有する者へ受診や継続受診の勧奨と保健指導による、重症化予防のための市町村等医療保険者の取組を支援します。
- 重症化予防の先駆的事例に関する情報提供とともに、糖尿病に係る医療連携について充実を図ります。
- ハイリスクアプローチとして、特定保健指導において一人ひとりの状態にあった運動指導や食事指導が効果的に実施できるよう、指導者に対する研修を実施します。

4 対策推進のための支援体制の整備

- 平成29（2017）年度に設置した千葉県糖尿病性腎症重症化予防対策推進検討会において、糖尿病性腎症重症化予防について検討し、市町村・各関係機関と連携して取組を推進していきます。
- 生活習慣改善を支援する保健と、治療を行う医療の間の相談支援のための協働・連携を図ります。

○ 治療と就労の両立支援に向け、職域との協働・連携を図ります。

<目標>

No	目標項目	現状値	目標値 (R14年度)
1	合併症(糖尿病性腎症の年間新規透析導入患者数)の減少	806人 (R3年末)	740人 ※衛研推計
2	治療継続者の増加	88.8% (R3年度)	95%
3	血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の減少	男性	2.1% (R2年度)
		女性	0.8% (R2年度)
4	【新】糖尿病有病者の増加の抑制	330,000人 (R4年度)	393,400人 (R13年度) ※衛研推計
5	【再掲】 メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少	男性	632,670人 (R3年度)
		女性	192,522人 (R3年度)
6	【再掲】 特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上	特定健康診査	55.8% (R3年度)
		特定保健指導	22.7% (R3年度)
			国目標値を 踏まえて今後設定
			国目標値を 踏まえて今後設定
			70%以上 (R11年度)
			45%以上 (R11年度)

※No.6の目標値は、国の第4期医療費適正化計画の見直しに合わせて更新予定